

自分の頭で考え抜く

森 一晃



私はさして運動神経や身体能力が高い方ではないのに、浪人時代の鈍った体を何とかしたい、阪大サッカー部OBの父の影響、スポーツ自体は嫌いではない等から不遜にも体育会サッカー部に入部した。大学生活はどこかの集団に属した方がなにかと経験できるだろうといういい加減な理由もあった。ただこんな人間でもまがいなりに4年間部活動をやり通せたのは懐の深い京大の伝統のお陰だと感謝しております。

そこには個性的な者たちが集まる濃密な人間関係があった。しかしそれほどこの学校でも人が集まればそれぞれに個性があるのは当たり前なので取り立てて言うことでもないが、京大で私の属した集団は何事も自分たちで考え、決めて行うということへのこだわりの強さに特筆すべきものがあつた。指導者風な人からの指示を言われた通り鵜呑みにしてやるという高校の延長線みたいなやり方はもう飽きたと、練習メニュー、試合日程等すべての活動内容を自分たちで決めていた。自分に甘くならないか、それだけを心配した。専門家からみれば幼稚であつたろうし、他人に誇れるような結果は全く残せなかったが、自分以外の人から言われたことを自分の頭で考えずにやることに極度のアレルギー反応を示す集団であつた。自分たちに自信があつたわけでもないし、今から思えばもうちょっと人の意見を聞いたり、調べたりすればよかつたかなと思わなくもないが、とにかく自分の頭で考え抜くことを良しとした。人の言いなりで勝つくらいなら自分で考えて負ける方がましと言えれば言い過ぎかもしれないがそんな雰囲気には満ちていた。私はこの集団で学生時代を過ごせたことを幸運に思う。自分の頭で物事の善悪を考え抜ける人が社会の役に立つ人であるからだ。監督と称する人からの反則まがいの指示を勝つために盲目的に実行する類のことは全く無縁であつた。社会にとって全く不幸でしかない戦争の指示者の指示に従い、ミサイルの発射ボタンを押す人の頭の中は物事の善悪を考え抜いているのだろうか。色々事情はあるが、理屈は同じだと感じる。有効な技術を持つ人でも自分の頭で物事の善悪を考え抜かなければそんな人は何人いても社会の害になりうるだけだ。私たちのような人がいれば世界は平和だなどと大それたことを言うつもりはないが、特にこのご時世では本当に大事なことだとつくづく思う。

これはあの時のサッカー部だけの特徴ではなく「京大」が醸し出すオーラみたいなもので学内の他の集団でも同様なことが起きていた、いると思われる。これが大学教育というものの一部であるなら大切にしていきたい。教官がたとえ付いていなくても「オーラ」で自分の頭で物事の善悪を考え抜く人間を育成する社会の役に立つ大学として発展していきたい。

(もり かずあき, ナビオコンピュータ株式会社代表取締役社長, 昭和62年工学部卒業)

[目次に戻る](#)